

市民環境大学OB会 ニュースレター



黒川清流公園に咲く吉祥草
(別所さん提供)

第56号 2026年3月19日 発行

日野市民環境大学は2009年に開講され、2025年で17期を数え、多く修了者を輩出しています。我々OB会は講師の小倉先生の指導を継続して受けたという有志により2012年に発足しています。大学が2025年度17期を終了したのを機に講師の小倉先生に17年を振り返っていただき、講座の特徴や今までの終了者数の集計、また今後について投稿いただきました。以下にご紹介させていただきます。

市民環境大学17期終了 延べ修了者は289名に！

小倉 紀雄

第17期市民大学講座は2025年12月11日に終了しました。前・後期で20回の長丁場でしたが、今期の修了者は14名でした。修了者の中には複数回受講された方も多く、講座は面白いと評価していただいた結果だと思います。内容は受講者のご意見を受けて少しずつ改訂していますので、これからも受講していただきたいです。

●意見交換の場

毎回の講座では話題提供に対して活発な意見交換があり、予定していた話題が終わらないこともしばしばありました。終了の10分前頃には感想文を書いていただき、次回に紹介することにし、講座で感じたことを皆さんと共有しています。意見交換や感想文は私にとっては大変参考になるもので、次回以降の講座の内容にできるだけ反映するように心がけています。

●トピックの紹介

講座のはじめには「トピック」を紹介しています。これは新聞記事やインターネットで紹介された最新の興味ある「ネタ」です。

後期1回目（10月9日）のトピックとして、朝日新聞の天声人語（8月24日）を紹介しました。『今年の夏は暑すぎて人間が外へ出られない。沈黙の夏になりつつある。また温暖化の影響は音にも表れている。江戸時代以降に俳句に詠まれた音に関する表現を統計的に分析すると、日本のサウンドスケープは変化しており、鳥の鳴き声や雨音など自然を詠む句が減少し、人の声や交通音など生活音が増えたという。レイチェル・カーソンの著書「沈黙の春」から60年以上経ち、温暖化の問題が新たな沈黙を生んだのか。裏道ではエアコンの室外機のうる音が聞こえてきた。』という内容です。

また、最終回（12月11日）には以下のようなトピックを紹介しました。

- ・瀬戸内でカキ大量死（朝日新聞記事11月30日）
- ・南極オゾンホール「南極大陸の1.6倍 依然として大きい」（気象庁発表11月26日）
- ・近年の関東と東海地方の雷発生増加の一因は黒潮大蛇行（三重大学発表10月16日）
- ・東南アジアの洪水の経済損失深刻（朝日新聞記事12月3日）

これらは新聞記事などの見出しですので、内容を詳細に解説し、意義を理解できるようにしました。

●市民環境大学OB会の発足と活発な活動

市民大学修了者の有志の方々により、環境問題の学習を継続したいとの目的で2012年に環境市民大学OB会が発足しました。2011年3月に起こった福島第一原子力発電所の事故により、大量の放射性物質が広範囲に放出されました。OB会としてまず取り組んだのは、日野市内の放射線量の測定で、事故から1年後の2012年3月から測定を開始しました。線量は $0.1 \mu\text{Sv/h}$ 以下で、福島原発敷地内境界の値に比べ桁違いに小さい値でしたが、測定開始後大きな変動はありませんでした。また黒川清流公園湧水の水量と水質の測定を毎月1回継続して行っています。

市民環境大学OB会ニュースレター第1号は2015年3月に発行され2024年9月に50号を迎えました。OB会の活動はニュースレターに随時掲載されています。

●市民環境大学をいつまで続けるか

市民環境大学を始めたのは2009年5月からで、市民の皆さんが地球規模や地域の環境に関心をもって欲しいということが動機です。

受講される皆さんは、各講座の中で、少なくとも1度は質問や意見を述べ、意見交換の輪に加わっていただきたいと思います。意見交換により頭の中が整理され、より活発な講座につながります。

市民環境大学講座と連動しOB会が発足し、さまざまな活動が継続的に行われていることは大変嬉しいことです。

私は少なくともあと3年、第20期まで続け、延べ修了者が300人に達することを願っています。

まずは、第18期（2026年度）を皆さんとともに楽しみたいと思っています。

市民環境大学年度別終了者数

期	年度	修了者数	(女性数)	延べ出席者数	開催日数	前期日程	後期日程
第1期	2009年度	13	4	349	24	5.7~7.21	10.2~12.7
第2期	2010年度	14	6	322	24	5.6~7.22	9.30~12.16
第3期	2011年度	11	3	227	20	5.12~7.16	10.6~12.15
第4期	2012年度	14	6	234	20	5.10~7.16	10.4~12.13
第5期	2013年度	15	8	320	20	5.9~7.11	10.10~12.12
第6期	2014年度	16	9	353	20	5.8~7.10	10.9~12.11
第7期	2015年度	19	8	343	20	5.7~7.9	10.8~12.10
第8期	2016年度	17	6	326	20	5.12~7.14	10.6~12.10
第9期	2017年度	21	9	327	20	5.11~7.13	10.6~12.14
第10期	2018年度	19	7	424	20	5.10~7.12	10.11~12.13
第11期	2019年度	26	9	556	20	5.9~7.11	10.10~12.12
第12期	2020年度	23	8	275	13	7.2~7.16	10.15~12.17
第13期	2021年度	25	11	458	19	5.13~7.15	10.14~12.16
第14期	2022年度	15	8	305	18	5.12~7.15	10.20~12.15
第15期	2023年度	16	7	333	20	9.7~11.9	11.30~2.22
第16期	2024年度	11	4	243	20	6.6~7.25	10.3~12.19
第17期	2025年度	14	8	291	20	5.15~7.17	10.9~12.11

講座終了者数	第1期～17期合計：289(121)名						
延べ出席者数	：5687名						
講座日数合計	：338日						
講座会場	第1期～8期(2009年～2016年) 環境情報センター						
	第9期～17期(2018年～2025年) カワセミハウス						
講座トピックス	2020年度前期は新型コロナウイルス感染症拡大により、5～6月の講座は中止 (カワセミハウス休館は4月9日～5月31日) (緊急事態宣言 2020年4月7日 解除 5月25日)						
	2021年度後期 10月8日は河川生態学術研究会出席のため、後期は9日間						
	2022年度後期 小倉検査入院のため 後期日数は8日間						
	2023年度前期 小倉入院のため9月7日から11月9日まで開講						
	後期 11月30日から2024年2月22日まで開講 合計20日間						
	2024年度前期 6月6日から7月25日まで8回 5月は放射線治療						
	後期 10月3日から12月19日まで12回 合計20日間						

日野市民環境大学2026年第18期開講のお知らせ

今号のニューズレターメインニュースで小倉先生より17期までの振り返り記事を1～2ページで投稿頂きましたが、今年も日野市民環境大学の第18期が開講の予定です。以下にカワセミハウスから出されている案内文を掲載します。今年も多くの方が受講されるよう期待しています。

2026年度 市民環境大学の開講のご案内（第18期）

2026年5月1日

カワセミハウス館長 水間正明

2026年度 市民環境大学を5月14日より開講します。

ご参加されるようお願いいたします。

目的

身近な環境問題から地球環境までわかりやすくお話しします。課題をみんなで考え、解決のためにできることを実践することを目的とします。

第1期から17期まで講座を修了された方の累計は289名で、修了生を中心としたOB会の活動も活発に行われています。

日程

毎週木曜日 午前10時～12時（2026年5月～12月まで）

前期：5月14日～7月16日（10回）

後期：10月1日～12月2日（10回）

場所

カワセミハウス集会室

主な内容（予定）

〔前期〕 2026年5月14日～7月16日

- はじめに（地球環境問題や身近な環境問題）
- 物質循環（炭素、窒素など）と人間活動の影響
- 地球温暖化・温室効果ガスと生態系への影響
- ヒートアイランド現象と身近な対策
- 多摩川の自然と文化：多摩川から東京湾へ
- フィールドワーク（黒川清流公園の植物など）公開講座（立川さん）

〔後期〕 2026年10月1日～12月2日

- 水の文化
- 水の特異的な性質
- 地球規模・都市の水循環
- 水資源・水利用
- 日野市の環境・環境行政（日野市環境共生部長）
- 東京湾の自然と文化：東京湾から外洋へ
- フィールドワーク（黒川清流公園の野鳥など）公開講座（村岡さん）

OB会メンバー 活動イベントニュース

- ・ 第3回環境審議会参加と報告（審議：日野自動車DC開発事業者への提案） 2025/12/24
- ・ 第3回、第4回カワセミ協議会参加と報告 2025/11/29、2026/1/31

OB会 例会情報 話題提供と話し合い情報

- ・ 12月例会：「健康寿命をのばし元気で余生を過ごしましょう」 田中徹さん紹介
- ・ 「黒川清流公園内の“沢、小道”に名前を付けよう」 田中会長、田中徹さん紹介
- ・ 1月例会：「古賀市長との面談報告」 小倉先生紹介
- ・ カワセミハウス10周年記念、環境大学の歩み、OB会活動等
- ・ 「OB会の運営に関する事項」検討 田中会長紹介
- ・ 2月例会：「次世代エネルギーとAIブームについて考える3つの話」 末包通信さん紹介
- ・ 1.電源近接型データセンター 2.次世代地熱発電 3.AIブーム
- ・ 「施設見学会」協議 候補：国立極地研究所、サントリー府中工場

OB会コラム

今回のOB会コラムは久しぶりに登場の田中徹さんです。岩手県にある松川地熱発電所見学記をご投稿頂きました。地球温暖化対策で化石燃料を使用しないエネルギー調達が強く求められていますが、日本のような火山大国では地熱発電は強力な解決策になると思われます。以下田中さんの訪問記を紹介します。

日本で最初の地熱発電・岩手県松川地熱発電所を訪ねました。

OB会 田中 徹

今から12年前の2013年7月群馬県のハッ場ダムのダム本体工事が始まる前の川原湯の現地を訪ねました。

昔から知られる名湯『川原湯温泉』の温泉街や川原湯温泉駅そして上毛カルタで『耶馬溪しのぐ吾妻峡』と詠まれた吾妻峡もダムの底に沈んでしまいました。

今回2025年10月初旬2泊3日で、岩手県の松川温泉、松川地熱発電所、八幡平を訪ねました。八幡平の一部は紅葉が始まっていました。松川地熱発電所は岩手山の北、八幡平の麓の松川温泉にあります。東北火山フロント上にあるため八幡平周辺には松川温泉を始め藤七、蒸ノ湯、後生掛、玉川温泉など硫黄泉源泉掛け流しの名湯が存在し熱湯の噴出と湯煙から地球のエネルギーが感じられます。山と温泉好きな私はこれらの温泉に以前宿泊しました。松川温泉も宿泊したのですが行程の都合で前の時は地熱発電所に寄ることができず、ようやく今回念願が叶いました。

松川地熱発電所は松川温泉（峽雲荘）から0.5km位の近くです。周囲はブナ、ミズナラ、ダケカンバ、ウダイカンバ、ホウノキなどの森林でミズナラの樹元には大きな天然マイタケも見ることができました。近くの湿地帯の水芭蕉の実には熊の好物で最近食べにきたらしく踏み荒らされていました。熊は春、冬眠直後は最初に水芭蕉を食べ胃腸を清浄します。毒性があるので人は食べてはいけません。ブナやミズナラの幹には熊の爪痕が残る樹もありました。



曇天のため画像が暗くなりました。

松川地熱発電所は日本で最初1966年運転開始、世界で4番目の運転開始だそうです。当初出力は9,500kw現在は23,500kwです。ただし現在、新技術による発電設備の更新工事が進められていました。新設備の出力は15,000kwを予定し、出力はダウンしますが効率性は良くなり、増設も課題のようです。地熱発電の蒸気井戸は8本あり6本を使用中で、訪ねた時も数力所から白い蒸気の煙が舞い上がっていました。噴出する230度の蒸気は旅館や染物工場などに配管されていました。発電所敷地には松川地熱発電所PR施設・松川地熱館があり無料で見学できます。八幡平の自然、源泉掛け流しの松川温泉や周囲の名湯と合わせ松川地熱発電所地熱館を訪ねてはいかがでしょうか



松川地熱館と冷却塔（建物左奥）



松川地熱館ビデオルームと展示コーナー

地熱発電の現状と今後の課題

地熱発電所は北海道、東北、九州に多く総出力は現在約55万kwと言われ1基の最大出力は大分県八丁原の55,000kw、国内約70カ所以上で取り組まれています。地熱発電資源量は世界3位、しかし発電容量では10位、アメリカ、インドネシア、フィリピンにも遅れをとっています。日本で地熱発電が進まなかったのは原発依存体質の電力村が常に足を引っ張ってきたからです。日本はまだポテンシャルの数%しか発電されていないのです。地球からの恵みである地熱発電を早急に進め再生エネルギーの比率を増やすべきです。

2025年10月31日経産省は次世代地熱発電所設置のロードマップをとりまとめました。2050年までに国内118地域で開発し発電設備容量は7.7ギガwの見通しです。これは原発7基分に相当します。

2025. 11. 06記 以上